

開成校新聞

発行 開成中等新聞局
発行責任者 阿部
制作者 加藤
* * *
東区北22条東21丁目
TEL 788-6987



レ・ミゼラブル札幌に再来

本物の体験ができる貴重な機会

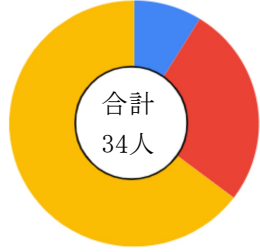
2025年5月25日(日)〜6月2日(月)の9日間、札幌文化芸術劇場hitaruにてミュージカル「レ・ミゼラブル」が再演された。本公演がhitaruで上演されるのは、2019年以降の6年ぶりだ。19世紀初頭のフランスの社会情勢や民衆を描いている。

開成では本物の体験から主体性を育むことを目指すSELFPを重視している。しかし開成では中等に変わってから芸術鑑賞がなくなつた。また札幌では東京などと違い、舞台鑑賞できる機会が非常に少ない。そのため今回の公演は本物を体験できる貴重な機会だった。



▲hitaruに掲示されていたレ・ミゼラブルのポスター

2025年の公演を観劇した人数



合計
34人

● 観劇した ● 知っていたが見てない
● 公演自体知らなかった

そこで、新聞局では今回のレ・ミゼラブルを観劇した人数を調べ、開成演劇部の部員を対象にアンケートを実施し、33名から回答を得た。結果は左のグラフとなった。結果は「公演自体知らない」という回答が最も多く、次いで「公演は知っていたが観劇してない」と「観劇した」という結果になり、実際に観劇した人は非常に少数だった。

レ・ミゼラブルの魅力 実際には観劇した4年の石倉さんは「時代背景など重い描写は多くありますが、曲や俳優さんの歌がとてもよく大好きな作品です。感動できて、また観たいと思いました。」と述べていた。レ・ミゼラブルは今まで何回も上演されており、東宝ミュージカルでは東宝演劇史上最多の3459回だ。その中で何度も出演している役者の方は年齢を重ねるとともに演じる役も変わっている。2019年の公演ではヒロイン、コゼットを演じていた生田絵梨花さんは、今回のhitaruでの公演でコゼットの母、ファンテーヌを演じていた。このような役者の成長も、長年上演され続けているからこそ魅力だ。また劇中歌もどれも素晴らしい。登場人物

今年12月にhitaruで上演されるミュージカル「エリザベト」も今回紹介した「レ・ミゼラブル」と同様、東宝ミュージカルが手がけた作品となっている。19世紀のオーストリアを舞台に、皇后エリザベトと、彼女を愛する「死」との愛やエリザベトの波乱に満ちた人生を描く心情を繊細に、かつ大胆に表現された名曲が揃っている。劇中歌の一つ「民衆の歌」では革命を志す若者の熱い思いが歌われている。またこの歌は様々なテレビ番組などで披露され、幅広く親しまれている。hitaruでの公演では生オーケストラが加わり、音楽の力強さや迫力がより一層際立ち、観客の心を掴んでいる。

開成の生徒にはぜひ劇場に足を運んで、作品を観て欲しい。今年の12月頃にはミュージカル「エリザベト」がhitaruにて上演される。貴重な機会を逃すことなく、本物の舞台を体験してほしい。

今年12月にhitaruで上演されるミュージカル「エリザベト」も今回紹介した「レ・ミゼラブル」と同様、東宝ミュージカルが手がけた作品となっている。19世紀のオーストリアを舞台に、皇后エリザベトと、彼女を愛する「死」との愛やエリザベトの波乱に満ちた人生を描く心情を繊細に、かつ大胆に表現された名曲が揃っている。劇中歌の一つ「民衆の歌」では革命を志す若者の熱い思いが歌われている。またこの歌は様々なテレビ番組などで披露され、幅広く親しまれている。hitaruでの公演では生オーケストラが加わり、音楽の力強さや迫力がより一層際立ち、観客の心を掴んでいる。

12月に上演決定「エリザベト」

いたミュージカルだ。このミュージカルも世界中で上演され続けている有名な作品の一つだ。劇中歌の「私だけに」や「闇が広がる」などはテレビなどでも披露されている。札幌で観る事の出来る貴重な機会になっている為、是非興味のある人は見に行つてほしい。と述べた。